

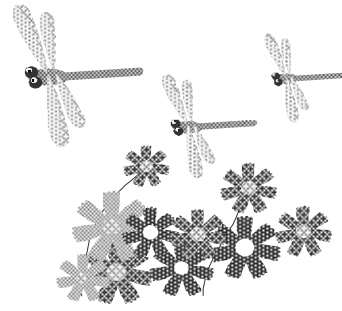
# 子育て通信(秋季号)

子どもに向かい合い続ける保護者を応援します。

発行: 墨田区教育委員会(地域教育支援課)  
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号

【子育て通信】は季刊です。裏面にコラムがあります。

『読書の秋』です。すみだ郷土文化資料館にて紙芝居の企画展を実施しています。  
この機会にぜひお子様と一緒にどうぞお越しください。



すみだの地で育まれた日本独自の児童文化財、紙芝居の歴史を紐解く。

## 子どもの権利条約採択30周年企画展 教育紙芝居の出発

今井よね 高橋五山 松永健哉

令和元年 10月5日(土) - 12月1日(日)

会場: 3階企画展示室・2階展示室A  
開館時間: 9時~17時(入館は16時30分まで)  
休館日: 月曜日・第4火曜日(それぞれ祝日の場合は翌日)  
入館料: 個人100円・団体(20名以上)80円  
\*中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料

東京都墨田区向島2-3-5 TEL: 03(5619)7034  
すみだ郷土文化資料館

紙芝居は日本独自の視聴覚メディアです。現在は主に保育園や幼稚園、図書館など教育施設で活用されていますが、元々は明治時代に誕生した紙製の人形を駆使した大衆芸能でした。当初は寄席や緑日の仮小屋などで行われていましたが、次第に路上に上演場所を移していきました。

そして昭和5年、それまでの「紙」人形「芝居」とは異なる、物語の一場面毎に一枚の絵を描いてそれをめくっていくことでストーリーを展開する「紙芝居」が登場しました。後に街頭紙芝居と呼ばれることになるこの新しい紙芝居は、瞬く間に子どもたちを魅了し、日本全国で流行しました。

しかし、子どもたちの好みに応えようとするあまり、内容はしばしば扇情的、猟奇的になりがちでした。そのため教育者や保護者等の大人達からは、紙

芝居は子どもの精神に有害であるとされ、批判の対象になりました。

そのような中、社会活動家や宗教教育者などの一部に紙芝居を教育的に利用する動きが見られるようになります。本所区林町(現墨田区立川)の自宅で教会を開いていた今井よねもその一人でした。今井は紙芝居の枚数や脚本などの形式を整え、印刷・出版し、現在まで続く教育紙芝居の原形を創り出しました。

本展では、子どもの権利条約採択30周年にあたり、紙芝居の発展に寄与した今井よねと、ともに教育紙芝居の草創期を支えた、高橋五山、松永健哉の三人の紙芝居制作者の活動を通して、本所で育まれた児童文化財である教育紙芝居の歴史を紹介します。

### ■案内図および交通機関



- ・東武伊勢崎線「とうきょうスカイツリー」駅より徒歩約7分
- ・都営浅草線「本所吾妻橋」駅より徒歩約8分
- ・区内循環バス北西部ルート「見番通り入口」停留所より徒歩約5分

すみだ郷土文化資料館  
墨田区向島2-3-5  
TEL 03(5619)7034 Fax 03(3625)3431





# 『子育て支援コラム』

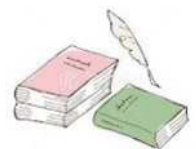
令和元年度第3回テーマ  
絵本を親子で考えるきっかけに

ようやく秋の深まりを感じられるようになりました。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、実りの秋...楽しみが多い季節がやってきます。子どもたちも、さまざまな行事やイベントに参加するチャンスがあることでしょう。せっかくの楽しみが、順位や出来不出来、その量を測るのではなく、子ども一人ひとりが、達成感や充実感を感じることができるチャンスにできれば良いと願います。また、家庭における読み聞かせも同じです。何をどれだけ(何冊)読んだかではなく、絵本を通して親子でどれだけ心を添わせ、その時間を楽しめたか、絵本をきっかけに親子で何が話し合えたかを大切にしてもらいたいと願っています。読み聞かせの時間は大人が子どもに向き合い、寄り添う時間です。絵本と一緒に幸せな時間の記憶を親子で積み重ねてください。

ここ数年の児童書の傾向として、多文化多様性をテーマにしたものが多く出版されています。なかでも LGBT をテーマにした絵本の出版は、目立って増えているようです。一般的に LGBT は大人の問題とされがちですが、なかには学童期や幼児期に「他(同性)のお友達とは違う」ことを本人が認識していることもあると聞きます。「自分らしさ」を尊重することは、自己肯定感を育むためにはとても大切なことです。「RED あかくてあおいクレヨンのはなし」(マイケル・ホール ほか【子どもの未来社】)はアメリカで数々の賞を受賞、アメリカ図書館協会のレインボーリスト(LGBT の青少年向け推薦図書)にも選ばれた1冊で、日本では2017年に出版されました。主人公は、本当は青いクレヨンなのに赤い紙カバーを巻かれた「レッド」。クレヨンの色で多様性を表現したアイデアが幼い子にもわかりやすいと評価されています。原題は「Red: A Crayon's Story」、幼い子にとってはまさに「くれよんのおはなし」なのでしょう。4歳のSちゃんは「お洋服(紙カバーのこと)が違ってたんだよ。でも、違うの着てても、ちーちゃんに見なきゃだめだよねぇ」と言っていました。多様性をテーマにした絵本は、ほかにも様々出版されていますが、まだまだ玉石混合なのも事実です。

まずは考えるきっかけとして、そして自分らしく生きることの大切さを知るために、多様性(違い)は特別なことではなく、自然なこととして、絵本が親子で考えるきっかけになればよいと願っています。

【コラム執筆者: JPIC 読書アドバイザー 児玉 ひろ美】



## 家庭教育に関する質問 絶賛募集中！！

地域教育支援課では家庭教育支援の充実を図るため、様々な事業を実施しています。一層の充実を図るため、「子育て支援コラム」で取り上げてもらいたい内容や事業についての質問を募集いたします。ご興味のある方はお気軽にお問合せください。

【連絡先】墨田区教育委員会事務局地域教育支援課地域教育支援担当

住所 〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20 墨田区役所 11階

電話 03-5608-6311【平日 8:30～17:00】 メール CHIHKIKYOUIKU@city.sumida.lg.jp